

N0.65 2012年4月2日

すてきなあなたへ

編集 佐倉市宮ノ台女性井戸端会議

発行 佐倉市宮ノ台4-26-8

Tel & Fax 043-461-7004

都市に残る里山〈関さんの森〉を訪ねてみませんか

〈関さんの森〉とは

名前の通り、関さん宅の屋敷林を中心とした松戸市幸谷にひろがる里山である。関家所有の屋敷林であった森 1.1 ヘクタールを急激な開発から守り、将来にわたって自然のまま残そうと関さん姉妹が（財）埼玉県生態系保護協会へ寄付し「関さんの森を育む会」（1996年発足）が中心となり自然観察会、里山の手入れなどの保全活動を行っている。

春には数種類のサクラやキリシマツツジが順々に満開を迎え、ジャコウアゲハが舞う。夏の森は爽やかな風が吹くなか、セミが大合唱。秋はザクロ、カキ、カヤの実、ケンボナシの実など多くの森の恵みを堪能できる。四季を通じてさまざまな動植物と出会い、都会のなかで自然を満喫できる貴重な空間である。また、近隣小学校の「総合的な学習の時間」の自然体験活動の場として年間約 2000 名の児童がこの森を訪れている。

森との出会い

私がこの森を知ったのは 2008 年。森周辺の都市計画道路をめぐる土地収用問題を扱った某 TV 番組だった。松戸市といえば「マツモトキヨシ」、「矢切の渡し」くらいの知識しかなかった。そして 2010 年 6 月に初めて訪問し、今は月 2 回の定例会やイベントに参加している。

「自然豊かな環境」というと山や高原、田舎といった時間とお金をかけて移動し、普段の自分たちの生活の場と離れた特別な場所、「非日常」をイメージすることが多かったが「関さんの森」は都会の中、住宅地と隣あわせに自然豊かに存在している。

佐倉市にも私が知らないだけで、関さんの森のような里山が残されているのではないかと、思いつつ松戸市に通っている。(F)

(ご案内は次ページへ)



<関さんの森>へ行くには

JR 新松戸駅より徒歩 10 分ほど。森の最新情報や行事予定などは「ブログ・関さんの森エコミュージアム」で紹介されているので、ぜひご覧ください。

ブログ・関さんの森エコミュージアム：<http://sekimori.cocolog-nifty.com/>



- * 関さんの森ガイドツアー：第一および第三日曜日（10 時～15 時）関さんの自宅の庭、蔵、門、周辺の梅林、屋敷林を「関さんの森を育む会」会員がご案内、無料・雨天中止
- * 里山保全定例活動：第三日曜日（10 時～12 時）どなたでも参加できます。

佐倉市の液状化は大丈夫？「被害状況図」をこの目で確かめよう

佐倉市の東日本大震災による「液状化等の地盤被害を伴う住家等の被害状況について」は、2011 年 8 月 12 日付で佐倉市のホームページで公表されている。「東日本大震災における液状化等の地盤被害を伴う住家等の被害状況図」もカラーで見ることができるので、参照してほしい。

<http://www.city.sakura.lg.jp/kotubosa/bosaikankei/H23.3.11ekijokahigai/H23.3.11ekijokahigai.htm>（地図の原図は、市の交通防災課か志津図書館でも見ることができる）

本誌では、イメージしかお伝えできないが、この地図は、市が 1996 年実施した防災アセスメントで示された液状化が発生する可能性のある区域図に、「東日本大震災における地盤被害を伴う住家等の被害一全壊・半壊・一部損壊の家屋を落とし込」んで作成されている。筆者は、1996 年に、こうした「区域図」が作成されていたことは初めて知ったのだが、今回の地震での被害家屋の分布がほとんど当該区域内に含まれていることが確認されたとともに記されている。また、この文書には、次のような記述がある。

「佐倉市北部の一部は、約 1,000 年ほど昔まで、印旛浦と呼ばれ、香取海という内海の一部でした。香取海は、霞ヶ浦・印旛沼・手賀沼をひと続きにした広大な内海であったと言われています」

利根川の堆積、浅間山噴火の火山灰流入などにより「海の陸化」と「浦の沼化」（印旛沼）が進んだという。そのため、佐倉市の地盤の特徴として、次のように説明されている。

「現在、宅地化されている場所であっても、もと水面下であったり、湿地・田であったりと、液状化が発生しやすい場所が多く存在しています。また、佐倉市のもうひとつの特徴として“坂”が多いというのがありますが、これは、もと水辺・湿地・田といった低地と台地が複雑に入り組んでいた名残と言え、同じ町名であっても、液状化が発生する場所と発生しない場所といった差が生じる傾向があります」

地図には、「液状化がしやすい地域」が黄色で、川や水路、田んぼを中心に広がり、「液状化の可能性のある地域」がうす茶色で、埋め立て地やかつて浅い谷だった地域が示されている。点々とした緑色と広い白地部分が地盤としては「よい・普通」「よい」とされる台地であった地域である。この地図の上に大震災での被害家屋を落としたというわけで、2011年6月末の集計で、佐倉市で液状化被害が確認された世帯数は192件で、県内10番目の被害数である。1位は浦安市の約3万1000件で県全体の72%を占めている（「震災から半年、液状化」『朝日新聞』2011年9月13日、参照）。

もちろん、しっかりとした地盤改良を行っている場所では、液状化等の地盤被害を免れているけれども、市のこの文書の最後には、次のようにも書かれているではないか。

「下記の分布図を参考に、地盤補強等を検討し、自分の財産は自分で守るという自助を推進いただければ幸いです」

交通防災課の説明では、2012年3月14日現在、大震災による家屋被害は、全壊37件半壊34件、一部損壊135件であったということであるから、先の数字と併せるとそのほとんどが液状化による被害であったことがわかる。液状化か、他の理由による損壊かは、地震直後でないとは判断が難しい、と担当者は語っていたが、地図だけは確かめておこう。

(M)



編集後記 トップの記事で、今年の1月、関さんの森の樹齢200年のケンボナシ移植のニュースを思い出す方もいることでしょう。ボランティア活動を続けている読者からの寄稿です。

菅沼正子の映画招待席 37

マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙

—すっかりサッチャー気分のメリル・ストリープ—

スーパーで牛乳と新聞を買い、レジでの支払いに手間どる老婦人（メリル・ストリープ）。おぼつかない足取りで家に帰る。背は曲がり、聴力も衰え、所作も緩慢。「最近牛乳も高くなったわ」と夫デニス（ジム・ブロードベント）の亡霊に話しかける。夫は数年前に他界していることを忘れていたのだ。認知症を患っているこの老婦人が、〈鉄の女〉といわれたあの偉大な政治家マーガレット・サッチャーさんのくいまの姿だと、だれが気づくだろう。

2008年にサッチャーさんの娘キャロルが、回顧録で母親が認知症であることを発表したことで、この映画は製作されたのだから、実話に基づくサッチャーさんの回想録ドラマともいえるが、1人で生きていく高齢者の物語として見ても非常におもしろい。妻として、母として、政治家として成功した1人の女性が、社会の一线から退き、高齢になって、栄光に満ちた過去の思い出をひもときながら生きていく姿、実に説得力がある。高齢化社会といわれるいまの世のなかで、サッチャーさんだけではなく、だれもが直面するであろう老いと孤独、切実な問題である。

雑貨商の娘として生まれ育った少女時代。町長の父親が町民の前で演説する姿に感動して、そのころから政治家を志し、オックスフォード大学を卒業。1950年、25歳で保守党から議員選挙に立候補するが落選。落ち込んでいる彼女に青年デニス・サッチャーが突然のプロポーズ。「私は食器を洗って一生を送りたくないわ」とマーガレット。「そういう君と結婚したいんだ」とデニス。こうして2人は結婚し（51年）、53年に双子のキャロルとマークを出産、59年に保守党から立候補して初当選（34歳）。

議員になってからも、父親の教えであり家訓である質素儉約、自己責任、自助努力を政治信条に、男性議員も舌を巻く熱弁。ヒース首相の下で教育相を務めていたころは、学校給食の牛乳の無償配給を廃止するなど、徹底した予算削減。ところがヒース政権の低迷で政権を労働党に奪われると、みずから保守党党首に立候補する。その準備シーンは興味深い。オバマ大統領や野田総理の演説のうまさは定評があるが、サッチャーさんも声音のトーンから抑揚のつけかた、服装、髪型、身振り、手振りまでを研究、それが功をなしてみごと保守党党首に選出され（1975年、50歳）、79年には労働党から政権を奪還、女性初の英国首相誕生（54歳）となる。

それから11年もの長期政権。首相としての功罪はともかく、その手腕はあっぱれ。自論と信念は曲げない。強いリーダーシップで国を統治した。象徴的なのはフォークランド戦争。南大西洋のフォークランド諸島をアルゼンチンが侵略したとき、「人命より国を守る」と即交戦に入り、2か月でアルゼンチン軍を撃退。ヨーロッパの通貨統合では「時期尚早」と加盟を拒否したのだ。サッチャーさんのキメ服はブルーのスーツ。イギリスの国旗ユニオンジャックを意識してのことだろう。歴史に名を刻んだ名相である。メリル・ストリープのなりきり演技で今年のアカデミー賞（第84回）主演女優賞受賞。

（3月16日より、TOHOシネマズ日劇ほか全国ロードショー）